

「心の渇きが癒やされますように」

私は、18歳の時に初めて神戸の六甲山YMCAで行われた日本聖公会全国青年大会に参加しました。最初はドキドキしながら神戸まで東北教区からの参加者と一緒に新幹線を乗り継いで向かったことを覚えています。会場に着くと同世代の約100名の若者がそこに集まっていました。緊張していた私でしたが皆さんと一緒に過ごして行く内に次第に心の緊張がほぐれていきました。そして、最終日の閉会礼拝（聖餐式）の平和の挨拶ではみんなでお互いに「主の平和」と挨拶を交わし、お互いに励まし合いました。その時、私は胸にこみ上げるものがあって感激しておりました。東北教区に戻って当時仙台にいた教会の友人に「皆であつまって一緒に青年会をしよう」と声をかけて有志でキャンプやクリスマス交流会を行いました。それが私の教会の青年活動の原点です。それ以降青年期を経て、現在は、参加者ではなく青年のプログラムを主催する管区の青年委員会の委員の一人として今日に至るまで約30年間青年活動にずっと関わらせて頂いています。コロナ禍になって教会の諸活動、そして私たちの生活様式もこれまで通りには出来なくなった時に私が一番に感じたことは「心の渇き」でした。集まって一緒に礼拝や交流をすることが決して当たり前のことではなかったことに気づかされました。それは皆さんにも共感して頂けるのではないのでしょうか。先日、ある幼稚園での先生方との研修の中で「コロナ禍がはじまった私は高校3年生でした。卒業式は何とか出来ました、短

大の入学式はなく、その後の授業はオンラインの日が続きました」という話を伺った時は、そのような状況に若い世代の皆さんは置かれていたことを聞いてはいたものの改めてリアルな声を聴くことによって実感させられました。幼稚園の園児さんたちもそうです。入園から卒園までずっとマスクで過ごさなければならなかった子どもたちです。今年の5月になってマスク着用が自由になった時にある園児さんが「みんな笑ってるね」と嬉しそうに言っていたことを耳にし、みんないつも笑顔でいてほしいと願わずにはいられませんでした。今年は数年ぶりに集まったのプログラムが再開されています。8月には東京で7年ぶりに日本聖公会全国青年大会、11月には清里で日本宣教協議会が行われます。また幼保園関連でも全国大会が函館で東北大会が盛岡で7月下旬から8月上旬の期間に予定されております。どのプログラムも多くの方が集まる予定です。すべてのプログラムに「心の渇き」を癒やす主の祝福がありますようにと祈ります。教会の活動も徐々にコロナ前に戻りつつあります。同時にこの数年の間に教会の状況、皆さんのそれぞれの状況も変わってきています。そのような状況の中にあって私たちはますます「心の渇き」を覚えているのではないのでしょうか。主イエス様は「私が与える水を飲む者は決して渇かない（ヨハネ4:14）」と言われました。皆さんお一人お一人が主の与えられる水（恵み）によって心の渇きが癒やされますように。（司祭 越山哲也）